

くすりの科学 ―富山大学薬学実習報告―

◇期 日：令和8年8月5日(水)・6日(木)・7日(金)

◇場 所：富山大学薬学部(杉谷キャンパス)

◇参加者：第2学年普通科理系・理数科学科生徒14名

◇指導者：富山大学薬学部 薬品製造学研究室、分子合成化学研究室、応用薬理学研究室の先生方、大学生、大学院生の方々

今回、私たち14名は富山大学薬学部の全面的なご協力のもと、3日間にわたり薬学部の研究室での薬学実習に参加しました。大学ならではの専門的な講義や高いレベルの実験に参加し、くすりに対する知識や薬学部に関する意識を高めることができました。



1日目の午前中は、松谷裕二学部長による有機化学についての講義と分子合成化学研究室的矢倉隆之教授による医薬品化学についての講義を受けました。有機化学の講義では、医薬品を理解するために最低限必要な有機化学の基礎を学び、医薬品化学の講義では、医薬品と生体の関わりを有機化学的に解説していただきました。

1日目の午後からは実験です。薬品製造学研究室的谷岡卓助教のご指導のもと、2名から3名のグループに分かれてジフェンヒドラミンの合成実験を行いました。設備の整った大学の実験室で2日かけて結果を導き出すという作業は、今までの学習環境では経験したことのないもので、実際にジフェンヒドラミンを合成できたときは大きな達成感を得ました。

3日目の午前中は、応用薬理学研究室的久米利明教授による動物実験講習と薬理学講義を受けました。動物実験講習では動物実験に臨む際の心構えや規則などの説明を受け、薬理学講義ではくすりが体に影響を及ぼす仕組みについて学びました。ともに午後の動物実験の事前学習として有意義な内容で、十分に準備して動物実験に臨むことができました。

午後は、応用薬理学研究室的歌大介准教授や澤幡雅仁助教のご指導のもと、2つのグループに分かれて薬理効果を確認する動物実験を行いました。実際に動物を解剖する様子を間近で見て、動物の犠牲のもとで私たちの科学の研究が成り立っていることを痛感しました。また、前日に自分たちが合成した薬を投与し、予想通りの結果を得ることができた際には喜びと達成感を覚えました。

講義の中には、薬理学研究の目的や大学での研究の意義についての説明もあり、薬学部での基礎研究の重要性について認識を新たにしました。また、講義や実験の合間にいくつかの研究室を見学させていただき、学生の皆さんの生の声をたくさん聞くことができました。漠然としていた大学生活がリアルに想像でき、大いに参考となりました。

今回の薬学実習に参加し、大学の研究室での研究活動を体験できたことは大変貴重な経験となり、大学進学や将来の進路選択を考える上でとても有意義なものとなりました。ご指導いただいた富山大学薬学部の先生方、終始サポートしてくださった学生の皆さま、そして計画、引率してくださった本校の先生方に心より感謝申し上げます。

